

共生社会システム研究執筆要領

2019年1月改訂

1. 原稿の種類と分量制限

以下の原稿の執筆には、書評の場合を除き、必ず既定の書式ファイル (manuscript_template.docx) をそのまま用いること。

- 1) 論文 書式ファイルにて16ページ以内
英文またはその他の外国語原稿の場合、25枚以内
- 2) 資料 書式ファイルにて8ページ以内
- 3) 短報 書式ファイルにて8ページ以内
- 4) 研究ノート 書式ファイルにて8ページ以内
- 5) 研究動向 書式ファイルにて12ページ以内
- 6) 総説 書式ファイルにて12ページ以内
- 7) 書評 書式ファイルの場合4ページ以内、あるいは総字数4000字以内

上記の分量には、表題 (和文・英文)、キーワード (和文・英文)、図表および英文要旨を含むが、和文要旨は含まない。

2. 原稿の作成・提出

- 1) 書評を除くすべての和文原稿には、以下のものを順に記載する。[表題 (和文)・表題 (英文)・5語程度のキーワード・本文・注・文献 (以上すべて和文)・300単語以内の要旨 (英文)・5語程度のキーワード (英文)・800字程度の要旨 (和文)] (原稿は匿名で審査されるため、個人情報には載せないこと。謝辞等は、審査終了後に記入する。)
- 2) 書評の場合は、以下のものを順に記載する。[表題 (和文)・著者名 (和文)・著者名 (英文)・所属 (和文)・所属 (英文)・本文]
- 3) 英文その他の外国語原稿は、以下のものを順に記載する。[表題・5語

程度のキーワード・本文・注・文献（以上すべて英文その他の外国語）・表題・800字以内の要旨・5語程度のキーワード（以上すべて和文）]（原稿は匿名で審査されるため、個人情報には載せないこと。謝辞等は、審査終了後に記入する。）

- 4) 図表は、審査が終了するまでは、本文中に直接挿入する。図表は、各図、各表ごとに別紙とする。図・表ごとにそれぞれ、図1、表1のように通し番号を付す。一つの図・表が複数の部分に分かれる場合には、a、bを付し、本文では図1-aのように言及する。
- 5) 審査終了後に提出する原稿においては、図表は、各図、各表ごとに別紙とし、1枚ごとに番号、表題、説明文、注、出所を記入する。また、本文の原稿の余白に図表の挿入位置を示す。
- 6) 投稿票には以下の項目を記載する。[原稿の種類・表題（和文）・表題（英文）・著者名（和文）・著者名（英文）・所属（和文）・所属（英文）・（学生の場合指導教員名）・原稿、書類のやりとりを使用する住所・メールアドレス]
- 7) 日本人などの執筆者名のローマ字表記は、Ichiro OKANO のように記す。
- 8) 英文表題の最初の1文字は大文字で始め、それ以降は冠詞、前置詞、接続詞を除き、各単語の最初の1文字を大文字で表記する。英文の副題との区切りにはダッシュ（—）は用いず、コロン（:）を置く。

3. 本文

- 1) 本文の構成は、節 [1. 2. …], 小節 [1) 2) …] の順の区分を原則とする。
- 2) 注は、本文中に（注1）（注2）…と記し、各論文末尾、引用文献の前にまとめる。
- 3) 単位は、℃, km, %, km² のような一般的な記号があるときは、それらの記号を用いる。
- 4) 句読点は、マル「。」とカンマ「,」を原則とする。

- 5) 算用数字や欧字などは、1字のみの場合を除き、半角とする。
- 6) 数字は1億2,345万のように記す。
- 7) 年次は西暦で表す。ただし、日本や中国などに関する歴史的記述などでは、必要に応じて1782(天明2)年のように年号を併記してもよい。「天明年間」「明治初期」などのように年号による特定の時期の表現が必要な場合には、なるべく初出の際に、対応する西暦を括弧書きで付記する。その際「1810年代」「19世紀初め」のような概略の表現でもよい。
- 8) 本文中の文献参照は、「著者姓(西暦年号)」、「(著者名 西暦年号)」、または「(著者名 西暦年号, p(pp). ページ番号)」で示す。その際著者が1名の場合は、Bateson (2000), (Bateson 2000), (Bateson 2000, pp. 310-311), 2名の場合は、Hardt と Negri, (2000), (Hardt and Negri 2000) 等、3名以上の場合は、Beck 他 (1994), (Beck et al. 1994), とする。和名の場合、矢口・尾関(編)(2007), (矢口, 尾関(編)2007) 等とする。
- 9) 翻訳書を参照する場合、著者名はカタカナ等で表記する。原典の出版年を記載する場合は、ポラニー (1975 (1957), pp. 3-5), (ポラニー 1975 (1957), pp. 3-5) 等とする。
- 10) 直接引用には、「」を用いる。本文などで直接言及する書名には『』(欧文はイタリック)、論文名には「」(欧文名は“ ”)を用いる。

4. 文献一覧

- 1) 参照した文献は著者姓のABC順に稿末に一括記載する。その際、下記の例示に従って、著者名・出版年・タイトル・(雑誌名)・出版社・(出版地)・開始ページと終了ページの順で記載すること。また、欧文の場合、論文名はダブル・クォーテーション(“ ”)で囲み、著書名はイタリック(斜体字)で記載すること。

古沢広祐. 2017. 「〈地域〉・〈農〉の再生と共生社会のこれから」『共生社会システム研究』11.1, pp. 30-41.

荒木和秋. 2016. 「自然共生型酪農による日本酪農の構築」尾関周二, 矢

- 口芳生（監修），古沢広祐，津谷好人，岡野一郎（編）『共生社会Ⅱ—共生社会をつくる—』東京，農林統計出版，pp. 185-200.
- 尾関周二，矢口芳生（監修），亀山純生，木村光伸（編）. 2016. 『共生社会Ⅰ—共生社会とは何か—』東京，農林統計出版.
- Rawls, J. 1958. "Justice as Fairness," *Philosophical Review*, 67, pp. 164-194.
- Bourdieu, P. 1977. "Cultural Reproduction and Social Reproduction," in J. Karabel and A. H. Halsey (eds.), *Power and Ideology in Education*, Oxford, Oxford University Press.
- Boldrin, M., and D. K. Levine. 2008. *Against Intellectual Monopoly*, Cambridge, Cambridge University Press.
- 2) 翻訳書の原典を記載する場合は以下の例に従う。
- カステル, M. 2009. (矢澤修次郎, 小山花子訳), 『インターネットの銀河系：ネット時代のビジネスと社会』東信堂. (Castells, M. 2001. *The Internet Galaxy: Reflections on the Internet, Business, and Society*, Oxford, Oxford University Press.)
- 3) 同じ著者の文献は発表年の順に並べる。同じ発表年のものが複数ある場合には，引用順に a, b, … を付して並べる。
- 4) 筆頭著者が同じである連名著者の文献の場合には，著者名の少ない順に並べる。著者が3人以上でも全著者を列記する。